

登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会

第7回まちづくり部会 会議次第

日時 令和5年1月27日（金）13時30分

場所 登別市婦人センター講堂（2F）

1. 開会

2. 情報提供

- (1) 教育環境部会の議論のまとめについて

3. 資料説明

- (1) まちづくり部会の議論の経過について

4. 協議事項

- (1) これまでの議論や各方面との意見交換の結果を踏まえて

5. その他

6. 閉会

教育環境部会の 議論のまとめについて

令和5年1月27日
登別市教育委員会

教育環境部会の議論の経過

- 第1回 部会長の選出など（書面会議）
- 第2～3回 温中同窓生などと意見交換
- 第4～5回 登中のあり方や統合の是非に関し議論
- 第6回 未就学児童保護者や幼稚園関係者と意見交換
- 第7～8回 「議論のまとめ」の方向性に関し議論
- 第9回 統合にあたっての基本的条件に関し議論
- 第10回 「議論のまとめ」の最終案に関し議論



教育環境部会としての結論をとりまとめ

教育環境部会の議論のまとめ

部会としての結論

教育環境部会としては、令和7年度を目途に、登別中学校と幌別中学校の校区を一つにする（統合する）ことが望ましいものとする。

統合にあたっての基本的条件

統合にあたっては、7つの項目について、必要な措置を講じることがを要望する。

教育環境部会の議論のまとめ

①校名について

統合後の校名について、両校関係者で組織する
新たな委員会で協議することを条件とする。

②校歌について

統合後の校歌について、両校関係者で組織する
新たな委員会で協議することを条件とする。

教育環境部会の議論のまとめ

③制服について

統合後の制服について、両校関係者で組織する
新たな委員会で協議することを条件とする。

④通学方法・通学手段について

通学方法・通学手段には複数の手法があること
から、新たな委員会で最良の手法を協議すること
とを条件とする。

教育環境部会の議論のまとめ

⑤ 特色ある教育の取扱いについて

特色ある教育の取扱いについて、要望する項目に関し、両校関係者で組織する新たな委員会で協議することを条件とする。

⑥ 学校保管資料の取扱いについて

学校保管資料の取扱いについて、両校教職員で組織する新たな委員会で協議することを条件とする。

教育環境部会の議論のまとめ

⑦ 学校間の交流事業について

統合に向けた準備に限らず、学校間の交流事業（部活動や学校行事の共同実施など）の実施について検討することを条件とする。

まちづくり部会の 議論の経過について

令和5年1月27日
登別市教育委員会

各方面との意見交換のまとめ

第3回（6/23開催）「意見交換会」について

【参加者】

登別国際観光コンベンション協会 大野さん、吉田さん

登別温泉旅館組合 山口さん

登別商工会議所 山本さん、田中さん

観光まちづくり協議会 辻さん

【内容】

- 学校の有無による居住地選択への影響について
- 学校の有無による労働力確保への影響について
- 登別中学校の統合についてetc.

第3回（6/23開催）における意見交換のまとめ

- 基幹産業である観光の雇用を支えるということと、中学校を統合するという事は両立しないのではないか。
- 学校が遠くなれば親の送迎の手間が増え、労働に割く時間が少なくなる。ひいては労働力の確保が難しくなる。
- 子どもの数が減るという見通しの中で動くのではなく、増やす方策を考えるべき。

第3回（6/23開催）における意見交換のまとめ

- 子どもたちが置かれている環境を見ても、統合が必要な状況にあるのは明らか。
- 保護者の立場としては、もっと早く統合の議論があっても良かったと思っている。
- 中学校で行われてきた地域への愛着を深める取組（熊舞や鬼踊りなど）は重要。
- そうした取組が観光産業の人材確保に寄与。登別地区は人材供給地として可能性あり。

第3回（6/23開催）における意見交換のまとめ

- 統合により幌別地区と登別地区の心理的距離が近くなり、雇用先が広がるのではないか。
- まちづくりにとっての学校ではなく、教育環境としてどうあるべきなのかを考えるべき。
- 子どもには、早い段階で少しでも大きい学校で様々な経験を積ませるべき。
- そうすることで優秀な人材が育ち、将来のまちづくりにもプラスになる。

第3回（6/23開催）における意見交換のまとめ

- 登別小学校は未来の存続のためにも、しっかりと守っていくべき。
- 小学校の有無は定住地の選択に影響を与えるが、中学校の有無との関係性は強くない。
- これを機会に、若い世代が居住地を選ぶ基準をしっかりと議論し、まちづくりに繋げるべき。

第5回（9/1開催）「意見交換会」について

【参加者】

三愛病院 千葉さん

登別伊達時代村 岸さん

北海道コンクリート登別工場 家政さん

JCHO登別病院 山村さん

【内容】

- 事業所の現状
- 非常時の対応
- 登別中学校の統合について etc.

意見交換のまとめ 「事業所の現状」

- 従業員で登別地区に居住しているのは10名程度。元々少ないことに加え、特に結婚すると、幌別以西に転居してしまう印象がある。
- 利便性の問題もあり、他地区を居住地に選ぶ傾向があるものと思われる。
- 登別地区に寮があるが、結婚すると転居してしまう印象がある。
- 物件が少なくて転居せざるを得ない面はあるかもしれない。

意見交換のまとめ 「事業所の現状」

- スタッフの子育て世代は、幌別地区や若草地区の居住者が多い。
- 学校入学前はコロポックルの森を利用し、小学校以降は居住地の学校を利用するケースが多い。
- 従業員のうち登別居住者は7～8世帯程度。独身寮は数年前廃止、社宅も本年末で退去の予定。
- 労働力の確保という点では、就業地に住んでもらう時代ではない（居住地からの通勤が前提）。

意見交換のまとめ 「非常時の対応」

- 非常時を考えれば、就業地近くに多くの職員が居住するのが望ましい。
- しかし、寮を整備してもなかなか住んでもらえないので、それを前提に危機管理を行っている。
- 登別地区に寮と社宅があるものの、なかなか住んでもらえない。
- このため非常時には幌別地区等から駆け付けることになる。短時間の参集が望ましいが、仕方ないものと思っている。

意見交換のまとめ 「登別中学校の統合について」

- 子どもが少ないのは残念だが、増えるとも考えにくく、子どもの成長にとっていかなるものか。
- まちづくりの面で学校は重要だが、学校の現状から、教育的にどうなのかという気持ちである。
- 中学校が無くなるのは悲しい部分はある。
- ただ、いずれ何らかの変化はあるものと思っていたし、変えなければならぬのは理解している（それが今かとなると悩ましいが）。

意見交換のまとめ 「登別中学校の統合について」

- 母校が無くなるとすれば寂しいが、これだけ小規模な学校で教育していくのは良いことなのか。
- 人口減少時には学校を減らす方向に向かうのは仕方ないし、現在の状態を続けることが良いことなのか考えなければならない。
- 子育て世代に聞くと、人数が少ないのであれば仕方ないという意見が多い。
- 幌別地区の学校も人数が減ってきているので、将来的にはより大きな統合があるのではないか。

部会における議論の概要

部会での意見「観光産業への影響について」

- 道内の他の温泉地では学校が存続しており、それらと比べると見劣りしてしまう。特に中間管理職は子育て世代なので、労働力を確保する際に不利になってしまう。
- 観光産業の人材確保への影響を心配する一方、親の立場では、現在の学校の状況を心配せざるを得ない。一定規模を確保しつつ、スクールバスなどで環境を整備することで、教育環境を確保しつつ、人材確保の際にもセールスポイントになるのではないか。

部会での意見「まちづくりへの影響について」

- 現在でも登別地区の人口は減少しており、さらに中学校が無くなれば、居住地として選ばれなくなり、さらに人口減少が進んでしまう。
- 学校はまちの基盤という側面があるので、まちづくりの面からは、統合には反対とならざるを得ない。
- 居住者同士の繋がりに惹かれ、この地を居住地に選んだという話もあり、繋がりを育む場として中学校が機能していたとすれば、（仮に統合となる場合には）それを補完する仕組みを考えなければならない。

部会での意見「登別中学校のあり方について」

- 子どもの減少で教育環境に影響が生じていることは理解するが、影響が生じているのであれば、子どもを増やして学校を存続させるべき。そのためにできることがあるのではないか。
- 登別地区は雇用の場も充実しており、統合ありきではなく、存続方法を検討すべき。
- 1学年2クラスが必要ということであれば、1学年あたりの人数を40人にするよう取り組まなければならない。

部会での意見「登別中学校存続の方策について」

- 義務教育学校を設置しても、同学年の人数は増えないので、小規模化の弊害の解消には繋がらないとのことだが、縦のボリュームで解決できることはないのか。
- 虎杖浜地区から子どもを受け入れることは、制度上ハードルが高く、また、虎杖浜地区自体の人口が少ないということもあり、小規模化の解決策にはならないとのことであるが、少しでも人数が増えるのであれば、様々な方策を組み合わせることで、1学年40人を確保することはできないだろうか。

部会での意見「今後の議論について」

- 統合のメリットがあることは理解する一方、まちづくりへの思いが強い地域でもあり、分断を生まないよう慎重に議論しなければならない。
- まちづくり部会としては反対の意見が大勢を占める一方、教育環境部会は統合を容認する方向で進んでおり、両部会の妥協点を探らなければならない。
- 仮に統合となった場合に、跡地をどのように活用していくかということも並行して話していかなければならない。

まちづくり部会 今後の議論の方向性について

令和5年1月27日
登別市教育委員会

まちづくり部会におけるこれまでの議論

- 地域から中学校が無くなれば、ますます居住者が減少。
- 中学校は生活基盤であり、良好な生活環境を確保する上でも重要。
- 観光産業の人材確保の面からも、（労働者の生活環境を維持するという意味で）中学校は重要。

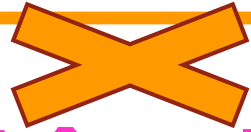


登別中学校は存続することが必要

まちづくり部会におけるこれまでの議論

【教育現場の現状に対しては共通認識が】

- 小規模化により既に教育現場に影響が
- 今後さらに生徒数は減少する見込み



教育環境部会の議論の動向

学校規模を適正化するための取組は必要

(存続を目指すとするれば)

- 生徒数の増加を図る必要あり
- 生徒数増加の具体策を示す必要あり

登別中学校存続に向けた方策

【登別市における学校規模の目安】

(中学校) 少なくとも1学年2クラス以上



**中学校の規模の目安を満たすためには、
生徒数を1学年20人以上増やす必要あり**



【これまでの議論における生徒数増加策】

- ① 虎杖浜地区からの児童・生徒の受け入れ
- ② 義務教育学校の設置

① 虎杖浜地区からの児童・生徒の受け入れ

【実現に向けた方策】

登別地区と虎杖浜地区を対象とする一部事務組合を設立し、両地区を校区とする組合立の学校を開校

【実現に必要な条件】

- 登別市教育委員会に組合設立の意向があること

↓

登別地区が登別市の教育行政の枠外に

↓

(登別市教育委員会として)

登別地区を登別市の教育行政から外す考えはなし

↓

虎杖浜地区から児童・生徒を受け入れる方向はなし

② 義務教育学校の設置

【生徒数増加の方向性】

登別地区の小学校と中学校をひとつにし、義務教育学校を設置することで、学校全体の児童・生徒数を確保

【登別市における学校規模の目安】

（中学校）少なくとも1学年2クラス以上

学年の人数は増えず、規模の目安は満たされず

- ① 人間関係の固定化
- ② 競争意識の低下
- ③ 社会性の育ちにくさ
- ④ 部活動の縮小



小規模化の弊害は解消されず

議論のまとめの方向性

登中存続には、
生徒数増加を図る必要あり

このままでは、
児童数減少がさらに深刻に

早急に地域活性化策に取り組む必要あり

(地域活性化のための新たな協議体などで)
地域活性化策 (まちの魅力の向上策) を具体的に検討